

Stand UP!

2015年9月24日

発行責任者 佐久間 晃史

NO. 6 編集責任者 情 宣 部

戦後70年間の平和主義の終焉

安全保障関連法案（戦争法案）が成立!!

2015年9月19日未明、「集団的自衛権」を行使できるようにする安全保障関連法案が参議院本会議で成立しました。この法案は「自衛隊の海外での武力行使」を可能とし、歴代の政権は憲法9条の下では認めてきませんでした。しかし、現政権では憲法を解釈変更し、集団的自衛権の行使を容認しました。この安全保障関連法案の成立は戦後日本の安全保障政策の歴史的な大転換となります。

法案成立には、自民党政権の本質が露呈!!

2015年5月14日に安全保障関連法案が閣議決定されて以降、衆参両院の特別委員会で210時間以上に及ぶ審議を行いました。しかし、集団的自衛権の行使容認は憲法学者から「違憲」と指弾され、国会では野党議員の追及に対して曖昧な答弁に終始し、国民の懸念が払拭されることはありませんでした。また、集団的自衛権行使の具体例とした「法人が乗船する米艦防護」や「ホルムズ海峡での機雷掃海」の説明についても二転三転し、必要性が曖昧になっています。

この事から世論は「法案に反対」「必要でない」「憲法違反である」「説明が不十分だ」という声が高まり、連日国会前では世代や考え方を越えて国民が結集し、デモ行動を繰り広げました。

しかし、自民党政権は国民へ説明する前にアメリカと勝手に約束したこの法案を、審議がつくされたとして強行採決に踏み切り、特別委員会で成立。そして賛成議員は「国民の声」に耳を塞ぎ、「数の力」で法案成立に持ち込みました。賛成議員は自衛隊員が犠牲になるかもしれない安保法制になぜ賛成したのか？国の為なら命を差し出せ、とでも考えているのでしょうか？また、労働諸法制の改悪も見逃ごせない事実としてあります。

JR貨物労組青年部の闘い

JR貨物労組青年部は、安倍・自民党政権が進める戦争法案に対して、国会前に立ち連日反対行動を行ってきました。

しかし、安保法案は現安倍・自民党政権の力によって成立してしまいました。

しかし、これからがたたかひのスタートです。安保法制に賛成している議員が多数いる現実を受け止め、私たちが安心して働いていく為に、そして平和な社会の実現の為に『たしる応援プロジェクト』を今まで以上に推し進めていきます。



継続した行動で平和な日本を取り戻す!!

JR貨物労組青年部